

音に対して過敏な子

人は、通常、音を聞き分けています。しかし、音に過敏な子は、聞き分けることができず苦しんでいるかもしれません。

具体的な場面で説明しましょう。国語の時間、1人の子が指名されて本読みをしているとき、遠くの方で救急車が走っていて、救急車の音が聞こえてきたとします。多くの子は、救急車の音は聞かないようにして、友達が本を読んでいる声を聞くようにします。友達の声と、救急車の音は違うから聞き分けることができるのです。ですから、通常の子は、友達の声だけ聞き取ることができます。しかし、音に過敏な子は、音が入り混じると、一つの音だけを聞き分けて聞くことができないのです。ですから、遠くの方で鳴っている救急車の音が大きく聞こえ、友達の声と混じることによって、友達の声を聞き分けることができなくなり、どこの部分を本読みしているか分からなくなってしまうのです。

学級でみんなが話していてざわざわしているときに、学級委員の子が「話をやめてください。」と声をかけたとします。通常の子は、話をやめるでしょう。でも、音に過敏な子は、ざわざわしている中では、学級委員の子の言葉は、何を話しているか分からないどころか、話をしたことに気付かないと思います。

一つ目の場合、本読みをしている場所が分からなくなり、先生からは、「何でしっかり聞いていないのですか。他ごとをやっている（他ごとをしている）から分からなくなるんです。もっとしっかり聞いていなさい。」と注意されるでしょう。二つ目の場合も、「学級委員の声が聞こえなかったの。いつまで話しているの。学級委員の言葉を聞いていなかったの。」と注意されるでしょう。

もし、先生がこの子が音に対して過敏な子であると気付いていなかったら、当然の注意であると思います。でも、この子は、音に対して過敏な子であり、二つの事例のどちらとも、この子は本を読んでいるのを聞こうと思っているし、学級委員の子の話を聞こうと思っているということです。聞こうと思っても、できないのが音に過敏な子なのです。

回りの人がこの子が音に過敏な子であることに気付かず、いつまでも注意されてばかりであると、自己肯定感が低くなり、自分はダメな子だ、何をやってもダメだと思うようになってしまいます。

話を聞くことができていないことが繰り返しある場合は、なぜ聞くことができないのかをよく見てあげることが大切です。頭ごなしにしっかり聞きなさいと言っても、その原因は様々です。その子ができるように援助してやるのが大人の役目だと思います。